

現在の近視治療

薬物、オルソケラトロジー、累進・遠近両用メガネ、手術、環境介入などを含むが、これらの治療法にはまだ問題点がある。

低濃度アトロピン

- 全身的な副作用
- 瞳孔散大による羞明と調力の低下
- 50%程度の近視進行予防効果



Orthokeratology

- 高額
- 装着しにくい コンプライアンスが低い
- 角膜感染症等のケアの必要性が高い
- 30～50%の近視進行予防効果



累進屈折力眼鏡

- 対象者が限定されている
- 眼鏡フレームの制限、瞳孔間距離や瞳孔中心、検眼精度などの要求が高い。
- 近視進行予防効果は不明



屋外活動

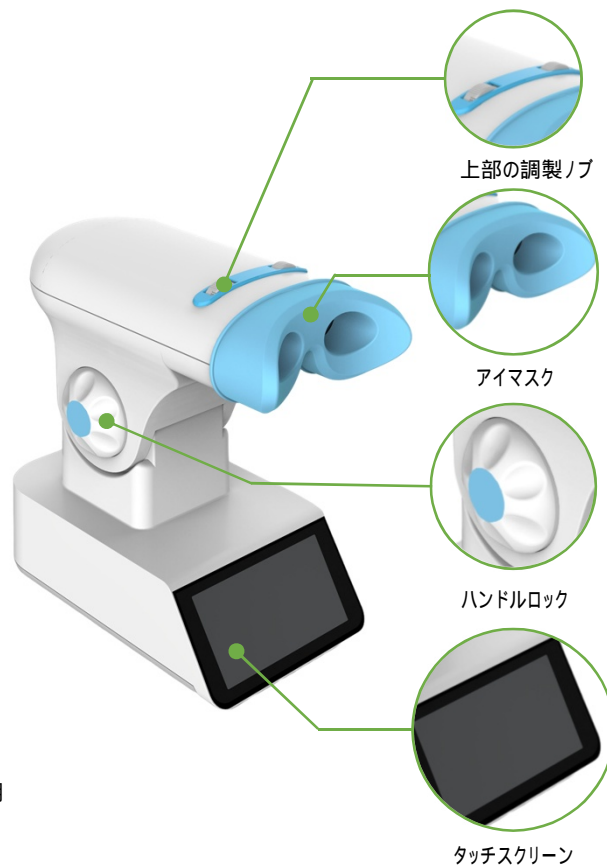
- 近視進行に対しては明らかな予防効果が証明されていない



新たな介入方法

低照度光療法は医療分野で広く利用されておりますが、近視においても、革新的で非侵襲的な治療法と考えられます。

レッドライト治療法は、眼球内の脈絡膜の代謝率と血流を改善し、眼軸長の伸長を制御し、近視の進行を予防すると考えられております。



研究の紹介

目的

強度近視の小児におけるレッドライト治療法後の眼軸長短縮の発生率と程度を確認すること。

選択基準:

1. 同意が得られた患者
2. 年齢：8歳以上18歳以下
3. 両眼調節麻痺下屈折検査での球面度数で-6.00ジオプリー(D)以下の強度近視
4. 本試験で必要な調査全てに参加可能であること
5. 低濃度アトロピン点眼治療は2週間以上中止する必要がある
6. 正常眼底、紋理眼底、乳頭周囲びまん性萎縮の小児

研究方法:

1. 基準を満たす小児が参加可能です。
2. すべての参加者は、日常生活や、その他の近視進行予防治療（ただし、アトロピンなどの散瞳を引き起こす点眼薬は除く）に加えて、平日（月曜から金曜日まで）1日2回（4時間以上の間隔で）、1回3分のRLRL療法を受けます。
3. すべての参加者は、ベースライン、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月、12ヶ月の眼科検査（調節麻痺下検査を含む）を受けます。

注目の近視管理装置

1. 安全
2. 使いやすい
3. 治療は自動に終了
4. コンプライアンスモニタリング機能付き



利点

1. 近視進行予防効果が期待できる
2. 1年間のデバイス無償使用（研究終了時に返却）

? 近視・強度近視とは

近視は、屈折異常のひとつで、遠くから目に入った光が網膜よりも手前で像を結ぶために、物がぼやけて見える状態です。近視がさらに進行すると、-6.0ジオプリー以上の強度近視になることが多いです。



👓 近視・強度近視の特徴



近視の多くが、目の眼球の前後方向の長さ（眼軸長）が正常な目よりも長くなりすぎることによって生じます。特に強度の近視の場合は、より長くなります。近視は一度発症すると、治ることはなく、近視の進行は不可逆的です。そして、強度近視の過剰な眼球伸長は、視覚障害のリスクを高めると言われています。

! 予防の重要性

子どもの近視や強度近視の予防と対策には、本人、家族、医療・保健機関、行政、学校などが一体となって取り組む必要があり、社会全体で行動することが求められています。



Study of repeated
low-level red-light
therapy in high
myopia control in
children and
teenagers

-- Eyerising International Pty
Ltd

📍 東京医科歯科大学病院
〒113-8519
東京都文京区湯島1-5-45

📞 病院内: 先端近視センター
TEL : 03-3813-6111 (代)
FAX : 03-5803-0110
HP : <https://myopia-center.com/>

2022年6月21日作成 第1版